

ふるさと歴史アラカルト

岩国城② 吉川氏の岩国移封

関ヶ原の戦いの後、慶長5(1600)年11月2日、吉川広家は、毛利氏の領地(周防国、長門国)から周防国玖珂郡・大島郡の内、岩国など3万石を分知されました。これは、徳川家康の意向によるもので、周防国の上方口にあたる岩国に居城を構え、新たに中国地方の抑えとして安芸国(現在の広島県西部)に配置された福島正則と協力して、家康に対し忠勤に励むようにと命じられたものです。

しかし、一方では、安芸国との国境に位置する重要な岩国が分知されたことは、毛利氏からの吉川氏に対する信頼ともいえます。後に萩藩で書かれた軍学書『兩國策』に、岩国が堅固であれば防長兩國(周防国、長門国)は堅固であると書かれるほど、岩国は毛利氏の防長兩國支配にとって重要な場所であり、また、西の国境である長府(下関市)には、かつて毛利輝元の養子であった毛利秀元が配置されていることから、東西の守りを毛利氏の有力な一

門で固めたと考えられます。

慶長6年8月、岩国に入った広家は、新たな拠点として城下町をつくるため、年内に都市計画の案を作り、翌7年より実施することとしました。その都市計画の中で、城を含めた城下町の拠点となる場所の選定は、最も重要な事項の一つでしたが、広家を選んだのは、中国路(山陽道)に近く錦川と横山(城山)に囲まれた横山でした。

岩国の地は、大内氏の時代から周防国東部の要所として重要視されていましたが、弘治元(1555)年以降は、毛利氏による防長兩國侵攻における軍事拠点となっていました。中でも横山は、毛利元就(広家の祖父)が、大内氏の開いた永興寺に本陣を置いていたことから、毛利氏、吉川氏にとって縁も深く、よく知る土地でした。広家は、領内を見分して都市計画を実施しますが、横山地区を城地として選んだことは、岩国移封が決まった段階で考えていたともいえます。

防長移封直後の長州藩の配置図

- 長州本藩主 毛利秀就
- 毛利秀元領(長府藩)
- 吉川広家領(岩国藩)



※徳山藩(下松藩)は1617年、清末藩は1653年に立藩

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 143,827人 男性 68,087人 女性 75,740人

世帯 66,720世帯 ※外国人人口を含む(平成25年4月1日現在)

交通事故発生件数 3月分事故件数 47件(142件) 死者数 0人(1人) 傷者数 53人(164人)
※高速道路発生分を除く ※()内は平成25年累計

広報テレホン 休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ 「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337